

平成 29 年度 事業 計画

I 基本方針

青森県と北海道を結ぶフェリー航路は、海上のライフラインとして、我が国の経済産業を支える大動脈である。当社の社会的使命として、この航路を維持発展させていく。

経営理念

1. 利用者のためのフェリー埠頭の機能強化と円滑な利用の確保
2. 財務内容の健全性と公正・公明な経営体質の確保
3. 職員が明るく、働きがいのある職場づくり

経営目標

1. 事業の公共性、公益性の維持と利用者のニーズに対応した埠頭施設の提供
2. 総合的かつ効率的な埠頭施設の管理による持続的な健全経営
3. 内部統制及びコンプライアンス態勢の整備による組織運営の健全化と公正・公明な事業活動の推進
4. 人材の育成と定員の適正化及び業務の合理化の推進
5. 強固な財務基盤の構築と経営の安定化

II 定款に定める公益目的事業

青森港及び八戸港のフェリー埠頭及びフェリー埠頭の円滑な利用を確保するために必要な施設の建設、賃貸及び管理運営を公益目的事業とする。

III 具体的計画

1 修繕工事实施計画

- ・青森港 (修繕費 24,200千円)
第2バース可動橋グレーチング床板修繕工事及び第2バース前駐車場の舗装及び消雪配管の経年劣化による損傷対策工事等について調査設計業務等を行う。
- ・八戸港 (修繕費 51,500千円)
可動橋の経年劣化の損傷に起因する塗装工事及び油圧配管取替修繕工事等を行う。

2 固定資産取得(施設整備)実施計画

- ・青森港 (資産取得 10,000千円)
第3・4バース間の歩道防護柵の経年劣化による損傷のため取替設置工事等を行う。
- ・八戸港 (資産取得 14,000千円)
第1バース防衝装置の更新工事等を行う。

IV 埠頭の運営

1 青森港

平成28年度に引き続き、利用船社3社で就航船8隻、運航便数16便を予定しており、棧橋等賃貸料は325,660千円を見込み、諸施設の効率的な運用を図る。

船社別就航等の計画は、次のとおりである。

船社名	区分	航路	就航船数 (隻)	便数 (便)	就航 トン数	年間接岸 トン数見込	備考
津軽海峡フェリー(株)		青森～函館	4	8	66,946	23,440,000	・利用バース数 4バース
北日本海運(株)		青森～函館	2	4	8,012	2,838,000	
共栄運輸(株)		青森～函館	2	4	10,112	3,582,000	
合計			8	16	85,070	29,860,000	

2 八戸港

平成28年度に引き続き、利用船社1社で就航船4隻、運航便数4便を予定しており、棧橋等賃貸料は147,280千円を見込み、諸施設の効率的な運用を図る。

就航等の計画は、次のとおりである。

船社名	区分	航路	就航船数 (隻)	便数 (便)	就航 トン数	年間接岸 トン数見込	備考
川崎近海汽船(株)		八戸～苫小牧	4	4	33,582	11,773,000	・利用バース数 2バース